

排水性舗装対応 エプロン



排水性に優れた横引き構造！
エプロンに 500mmピッチの水抜き穴を設け、排水性舗装の浸透水を横引きで排水する構造です。



特長

1 多くの実績に裏付けされた信頼の排水構造

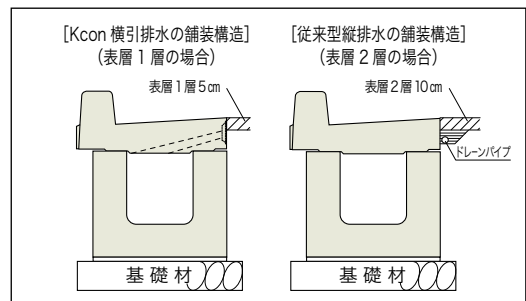
平成16年に開発されて以来、平成30年3月現在の近畿地区の実績は14000mを超えました。高性能な排水構造が高く評価されています。

2 表層舗装が1層(5cm)でも十分な排水性能を発揮

従来のドレンパイプ舗装では路肩部の排水性舗装厚さを2層としていましたが、当社のエプロンは1層を標準としています。
※施工場所の条件によって、2層必要な場合もあります。

3 従来のエプロンとまったく同じです

施工後の外観は従来のエプロンとなんら変わりありません。



【フィルター材質】

難燃性：HB
荷重たわみ温度*
：174°C(0.45MPaの場合)
※JIS K7191-2 プラスチックによる

フィルターの材質はアスファルト舗装施工時の温度(150°C程度)に対する耐熱性のほか、耐衝撃性、靱性にも優れたナイロン樹脂です。

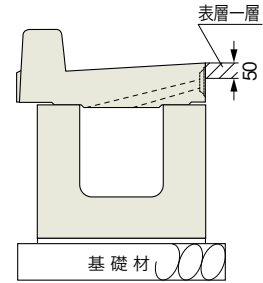


歩掛り

延長10.0mあたり

工種	名称	規格	単位	数量	摘要	
据付工	エプロンPGUF-A		個	5.0	排水性舗装タイプ	
	世話役		人	0.1		
	特殊作業員		人	0.1		
	普通作業員		人	0.3		
	ラフテレーンクレーン運転	ラフテレーンクレーン(4.9t吊)		日	0.1	
	諸雑費			%	3.0	

【標準施工断面図】



- 注)1: 歩掛りは、運搬距離 30m 程度を含む標準的な据付作業であり、掘削、埋め戻し等は含みません。
 注)2: 諸雑費は小運搬機具の損料、目地モルタルおよび敷モルタルの費用として、労務費、ラフテレーンクレーン賃料の合計に率を乗じた金額を上限としています。
 注)3: 据付に使用するラフテレーンクレーンは 4.9t 吊を標準とします。ただし、現場条件によりその規格を変える事が出来ます。

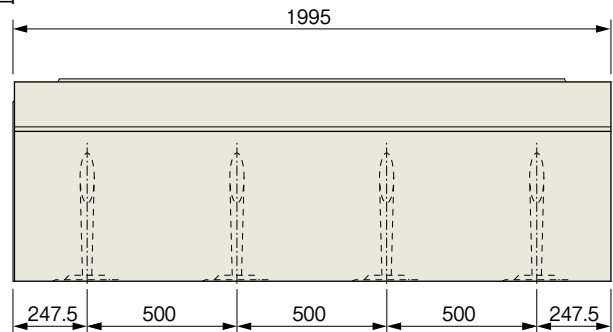
製品図 (PGUF-A)

(単位:mm)

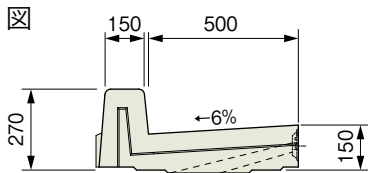
PGUF-A 以外の製品もご用意しております。担当営業にご相談ください。



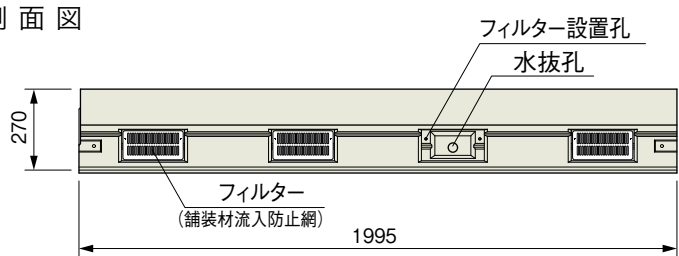
平面図



側面図



側面図

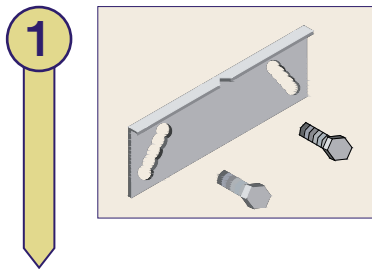
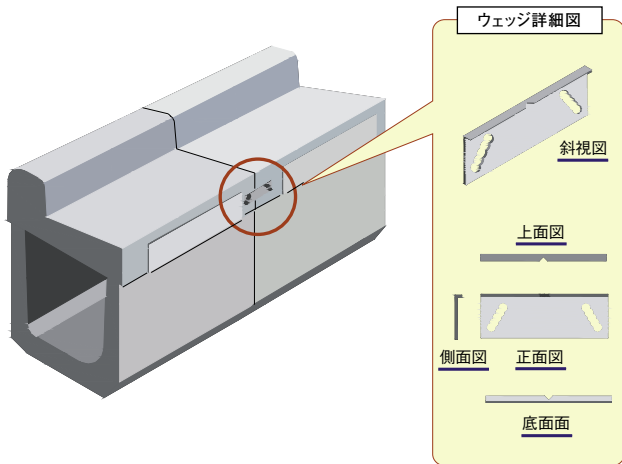


注)面取り・吊り孔・テーパー等製作上必要に応じて加工する場合があります。

コンクリート製品連結金具PAT

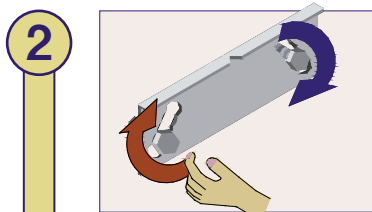
ウェッジの取付方法

A. 新タイプのウェッジ

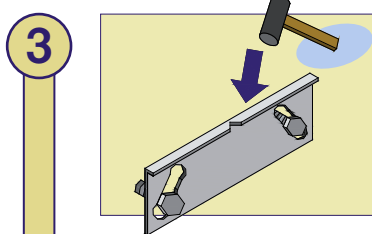


①ウェッジはプレートと2組のボルト、ワッシャでエブロンを連結します。

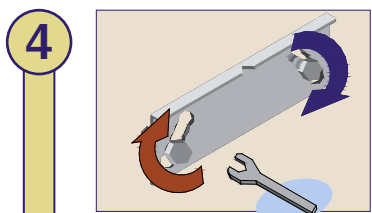
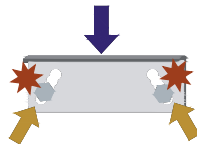
使用工具



②折り曲げ面上側にして、プレート穴にボルトとワッシャを差し込み、手でボルトを締めて固定して下さい。その際、プレートはできる限り水平に取り付けるように注意して下さい。



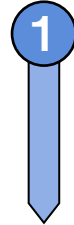
③ハンマーでウェッジ上部の折曲面を叩くことで、ボルト穴への固定が強力になります！(下図参照)



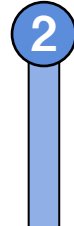
④最後にレンチを使ってボルトをしっかり固定して、全工程終了です。

完成！

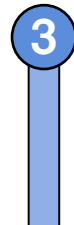
B. 従来のウェッジ



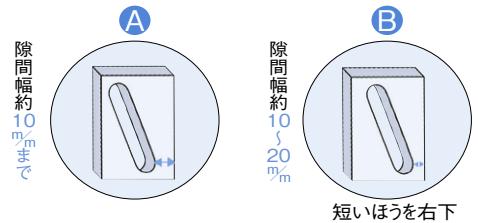
ウェッジは、プレートとクサビを一組として使用します。施工工具としては、レンチとハンマーを用意して下さい。



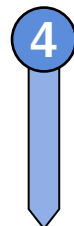
プレートは、折り曲げてある側を向かって右に向け、左側の丸孔にワッシャをはさんでボルトを差し、レンチ等でかたく締めて下さい。



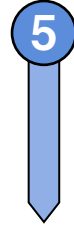
右側の長孔の上にクサビを当て、ワッシャをはさんでボルトを差し、指で締まるまで締めて下さい。クサビは、製品間の隙間により向きを変えます。下図を参考にして下さい。



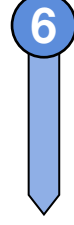
短いほうを右下



上図Aの向きでの使用が困難な場合は、ボルトを少し緩めれば、取り外すことなくBの向きに回転できます。



クサビの頭をハンマーでたたきます。たたきにくい場合は、上右図のように別のプレートをあててたたきます。



右側のクサビを固定するボルトを、レンチ等でかたく締めて取付完了です。

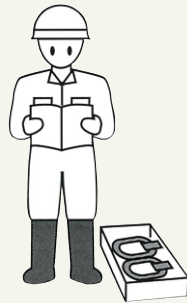
安全確保のために [安全に作業していただくためにこの事項をお守り下さい。]

危険 **注意**

取り扱い全般について



- 法的資格のない人は、絶対にクレーン操作、玉掛け作業をしないで下さい。
(クレーン等安全規則第221条、第222条)
- 吊り上げ運搬中や反転作業中には、つり荷の落下、転倒範囲内に立ち入らないで下さい。
(クレーン等安全規則第28条、第29条)
- 製品が1mを超える物は、必ず4点吊りで行って下さい。又は、1m以下の製品は必ず2点吊りで作業を行って下さい。
- 作業開始前の点検や定期点検を実施して下さい。
(クレーン等安全規則第217条、第220条)



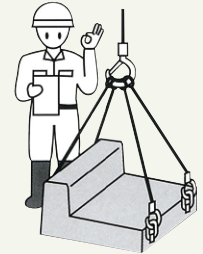
作業前の確認について



- 吊り金具の変形、亀裂、溶接亀裂、摩耗等異常のある物は使用しないで下さい。
- つり荷の条件が次の場合は吊り金具を使用しないで下さい。(吊り穴(インサート)の破損した製品、破損及びクラックの入った製品)



- つり金具に使用するスリング、シャックルは玉掛け作業に適合した物を使用して下さい。



施工する時の安全対策



- 製品の吊り上げ、吊り下げ時には部材の下に絶対、人が入らない様にして下さい。
- 掘削機(ユンボ)での吊り上げ、吊り下げ作業は、絶対しないで下さい。
- 掘削機は回転運動になるため吊り上げ、吊り下げ時、スリングがはずれたり荷ぶれが生じる危険性があります。
- 製品の吊り上げ、吊り下げには垂直に昇降するクレーンなどを使用して下さい。
- 玉掛け作業は必ず有資格者が作業して下さい。



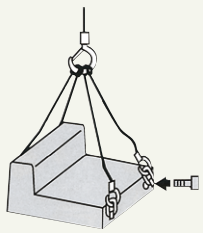
吊り金具の取り付け



- 製品本体の吊り穴(インサート)に吊り金具のボルトを奥までねじ込みセットして下さい。
- 吊り上げ時に吊り金具が外れない様、十分ねじ込めているか確認して下さい。



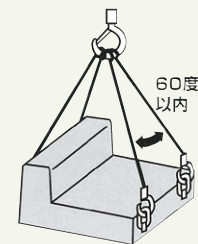
- 吊り金具と製品部材で手、指を詰めない様に注意して下さい。
- 吊り金具セット時に製品を破損させない様に注意して下さい。



エプロンの吊り上げ



- 吊り金具の基本使用荷重を超える製品は、絶対に吊らないで下さい。
- 製品や吊り金具に衝撃荷重が働くようなクレーン操作はしないで下さい。
- 吊り上げた製品には、絶対、人は乗らないで下さい。
- クレーンで巻き上げるとき、吊り金具に荷重が掛かった時点で一旦停止して、安全確認(差し込み深さ、スリングのねじれ、吊りバランス)を確認して下さい。
- クレーンの巻き上げ、巻き下げは、静かに丁寧に行って下さい。



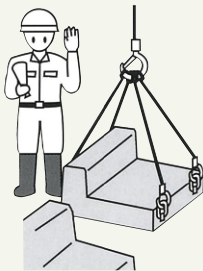
据え付け



- 製品を引きずるようなクレーン操作をしないで下さい。
- 着地前に一旦停止して、次の事を確認して下さい。(製品の傾き、転倒、及び周辺の安全確認)
- 巻き上げ中や運搬作業中には製品の落下、転倒範囲内には、立ち入らないで下さい。



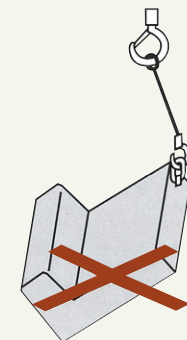
- 製品に大きな衝撃を与える作業はしないで下さい。
- 急激なスピードによる吊り上げ、吊り降ろしは、しないで下さい。
- 製品を破損させない様に静かに吊り上げ、吊り降ろしをして下さい。



金具の取り外し



- 製品から取り外し途中の状態再度吊り上げは、絶対にしないで下さい。
- 製品が定位置に据え付け完了すると吊り金具を外します。この時、取り外した吊り金具は、側溝上に置きします。
- 吊り金具を全部、側溝上にある事を確認して下さい。

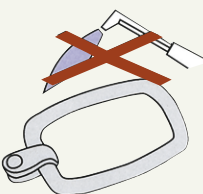


- 吊り金具を取り外す際、手、指を詰めないように注意して下さい。

保守点検・保管・改造について



- 吊り金具の改造は、絶対にしないで下さい。
- 吊り金具に溶接、加熱などしないで下さい。
- 保守点検は、事業者が定めた専門知識がある人が行って下さい。
- 保守点検で異常があった時は、そのまま使用せず、ただちに廃棄して下さい。



- 吊り金具は必ず屋内に保管して下さい。